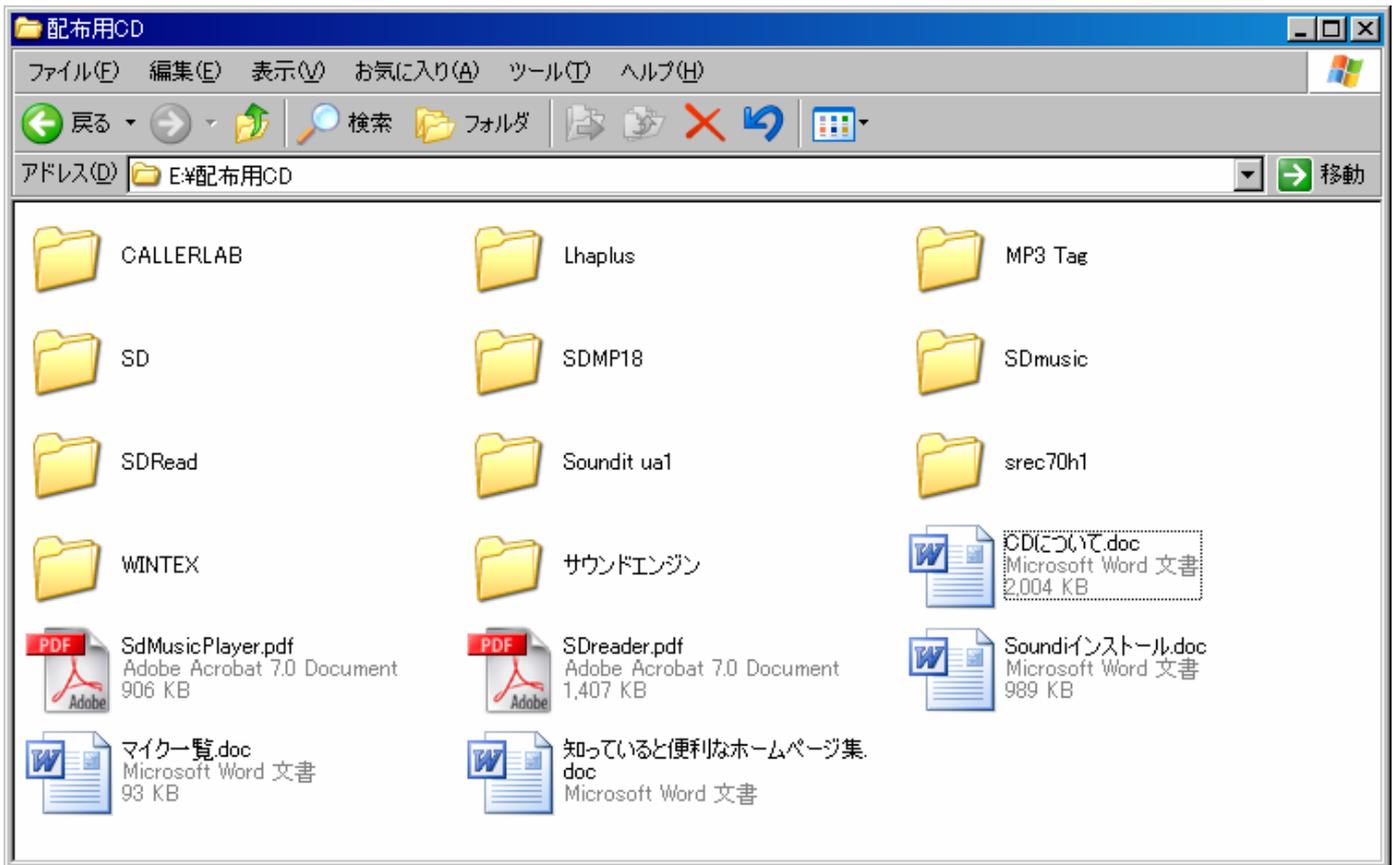


この CD には次のファイルが含まれています。



1. CD について (このファイル)
2. SDReaderSetup.exe (SD リーダーインストール用ファイルー河村さんが作ってくれたソフト)
3. SD (コール作成用ソフト Sd5282sー菊地さんが編集されているソフト)
4. sdmp17 (音楽演奏用ソフト・SDMusic Playerー竹内さんが作ってくれたソフト)
5. srec70h1 (ライブ録音用ソフト)
6. WINTEX (SD リーダーで作成したシークエンスを印刷するためのソフト)
7. Sefree2945 (Sound Engine : MP3 録音・編集ソフト)
8. SdMusicPlayer.pdf (青木さんが作ってくださった SD Music Player の説明書)
9. Sdreader.pdf (青木さんが作ってくださった SD Reader の説明書)
10. lpls122a.exe (ファイル解凍・圧縮ソフト)
11. SDmusic (SDMusic Player の練習用サンプルファイル)
12. CALLERLAB (MS から C3A までのリストとディフィニション+α)
13. Lhaplus (ファイルの圧縮・解凍ソフト)
14. MP3 TAG (MP 3 ファイルのタグ情報を編集するソフト)
15. 知っていると便利なホームページ集 (アドレス行でエンターすると表示されます)

以下、それぞれのインストール方法および使い方について簡単に説明します。

1. **SDReader 及び SDMusicPlayer に関しては青木さんの PDF ファイルを参照してください。**

2. SD (コール作成用ソフト)・srec70h1 (録音用ソフト)・Sound Engine (Sefree2945 : MP3 録音・編集ソフト) のインストール

以上は特別なインストール作業は必要ありません。

それぞれをフォルダーごと C ドライブにコピーしてください。(D ドライブでもかまいません)

srec70h1 (録音用ソフト)・Sefree2945 (MP3 録音・編集ソフト) はコピー先のフォルダーを開いてそれぞれ右クリックしてショートカットを作りデスクトップに貼り付けてください。

srec70h1 (録音用ソフト) の使い方についてはフォルダーの中のインターネットエクスプローラーのロゴをクリックすると表示されます。ご確認ください。

3. SD (コール作成用ソフト Sd541s) のインストール

C ドライブの SD フォルダーを開いてください。

ファイルの中にはコール作成用ソフトとして SdTTY と SD32 が含まれています。

また、先ほどインストールした WINTeX を利用してシークエンスファイルを印刷するための MKSEQ というプログラムが収録されています。これらのファイルは Windows 上ではなく MSDOS プロンプト上で動作するソフトです。そのため下記の初期設定が必要になります。

3-1) MSDOS の初期設定

スタートボタンから「全てのプログラム」→「アクセサリ」を選択し、「コマンドプロンプト (WIN 9 8 の場合は MSDOD プロンプト)」を右クリックしてショートカットを作ります。もう一度スタートボタンから「全てのプログラム」→「アクセサリ」を選択し、「コマンドプロンプト」の中に新しくできた「コマンドプロンプト (2)」を右クリックで切り取りデスクトップに貼り付けてください。

デスクトップの先ほど作成した「コマンドプロンプト (2)」を右クリックして名前をわかりやすいものに変更します (ここでは「SDPRO」としました)。

3-1a) WIN XP の場合

ショートカットをクリックしてコマンドプロンプトを起動します。

C:>のすぐ後に us と入力して Enter します。表示が英語モードになります。右上の をクリックして一旦終了します。ショートカットを右クリックしプロパティを開きます。

ショートカットをクリックし、作業ホルダーに `c:\usd` と入力し、「適用」をクリックします。

フォントをクリックし「Lucida Console」を選択しサイズを 18 にします。「適用」「OK」の順にクリックします。

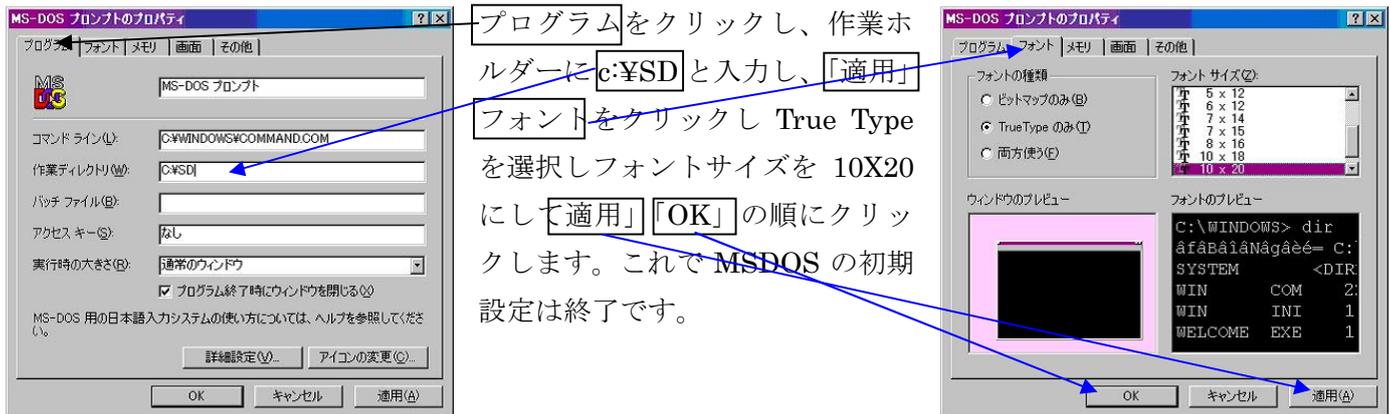
以上で設定は終了です。

3-1b) WIN98・ME の場合

ショートカットをクリックしてコマンドプロンプトを起動します。

C:¥>のすぐ後に us と入力して Enter します。表示が英語モードになります。

一番上の「SDPRO」と表示されている部分を右クリックし、プロパティを開いてください。



4. SDtty (コール作成用ソフト Sd41s) を使ってみる

SDtty は自動でシーケンスを作ってくれるソフトではありません。SDtty はよいコーラーになるため、あるいは、まだコールしていないレベルのコールをするためのものではありません。SDtty は資料をより速く、より正確に作成するためのものです。コーラーとしてもっとも重要なフロー、タイミング、難易度、サイトコール、フロアでの相互関係などは、SDtty では分かりません。まだ知らないレベルを上手に説明できないのにコールしたり、適切でないコールで終らせたりするコーラーが、Sdttty を使おうとするのを見てきました。私たちは SDtty を、コマを自動的に動かすという道具としてのみ使うことを提案します。

ショートカット「SDPRO」をクリックして DOS プロンプト画面を表示します。

>の後に **sdttty m** (レベル文字 : m メインストリーム、p プラス、a1 A1、a2 A2、c1 C1、c2 C2、c3a C3A、c3 C3、c3x C3X、c4a C4A、c4 C4、c4z C4) と入力し Enter します。(全て小文字 sdttty とレベル文字の間にスペースを入れる) レベル文字を省略した場合は m とみなします。sdttty とレベル文字の間に -kp と入れると全ての動作の後のダンサーの図を自動的に保存してくれます。SDReader を使用する方はこのオプションを指定していくと便利でしょう。(例 >sdttty -kp p)

```

c:\SDPRO - sd32 m
Microsoft Windows XP [Version 5.1.2600]
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.

c:\SD>sd32 m
Sd: reading database.....done
SD -- square dance caller's helper.
Copyright (c) 1993-1999 Sue Curtis.
Copyright (c) 1991-1994 William B. Ackerman and Stephen Gildea.
SD comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details see the license.
This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain
conditions; for details see the license.
You should have received a copy of the GNU General Public License along
with this program, in the file "COPYING" or with the manual; if not,
write to the Free Software Foundation, Inc., 675 Mass Ave, Cambridge, MA
02139, USA.
Sequence output file is "sequence.MS".
Enter new file name: _

```

Enter new file name に作成するファイルネーム (半角 8 文字以内、拡張子 3 文字以内) を入力します。省略した場合は sequence.レベルとなります。

次に Enter level に表示したいラベル、パーティ名等を記入します。

Enter number に開始番号を記入します。省略された場合は 0 となります。番号はシーケンスを作成するたびに自動的に一つ増加します。

Enter start up command に heads start (必要に応じて別のコマンドも入力できます) と入力します。

```

Microsoft Windows XP [Version 5.1.2600]
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.

c:\SD>sd32 m
Sd: reading database.....done
SD -- square dance caller's helper.
Copyright (c) 1993-1999 Sue Curtis.
Copyright (c) 1991-1994 William B. Ackerman and Stephen Gildea.
SD comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details see the license.
This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain
conditions; for details see the license.
You should have received a copy of the GNU General Public License along
with this program, in the file "COPYING" or with the manual; if not,
write to the Free Software Foundation, Inc., 675 Mass Ave, Cambridge, MA
02139, USA.
Sequence output file is "sequence.MS".
Enter new file name:
Specify text label for all sequences.
Enter label: Test
Specify starting sequence number.
Enter number: 1
Version Sd52.72;db52.71S Mainstream
Output file is "sequence.MS"
Enter startup command>

```

```

Sd52.72;db52.71S Mainstream

4B▶ 3G▼ 3B▼ 2G◀
4G▶ 1B▲ 1G▲ 2B◀

1: HEADS
-->

```

ムーブメントを入力していきます。ダンサーの配置図を保存したい場合はその都度 keep picture (F-5) と入力します。ムーブメントの途中でスペースキーを押すと候補語が表示されます。

Left allemande 又は right and left grand と表示されたら end this sequence (F-10) と入力して、一つ目のシークエンスの完了です。

Enter new label と聞いてきますので、ラベルを変更したいときには新しいラベルを入力します。変更のないときはそのまま Enter して下さい。次のシークエンスの入力に進みます。

作成が終了したら exit と入力してプログラムを終了します。もう一度 exit と入力すると DOS も終了します。

SD でよく使用するコマンドはファンクションキーからも入力できます。

Key	Function Key	Shift	Control
F1	heads start	sides start	just as they are
F2	two calls in succession	twice	
F3	pick random call	pick concept call	pick simple call
F4	resolve	reconcile	normalize
F5	refresh	keep picture	insert a comment
F6	simple modifications	allow modifications	
F7	toggle concepts	toggle col/act phan	
F9	undo	abort the search	
F10	end this sequence	change output file	
F11	pick level call		
F12	find another	accept	previous

普段のコールのときに気にせず使っていますが、例えば double pass thru フォーマーションからセンターに right & Left thru をかけたい場合には centers と指定してあげないと動きません。いろいろ試してください。

http://www002.upp.so-net.ne.jp/y_matsu/sd/index.html に使い方の説明があります。参考にしてください。

4. 音楽の MP3 ファイルの作成

4-1) 音楽 CD から録音する場合

Windows XP を使っている方は Windows Media Player をバージョン 10 にアップデートしてください。取り込みの設定で自動的に MP3 に変換してくれます。

4-2) Sound Engine を使ってレコード・MD 等から録音する場合

(あなた自身が持っているレコードのみ使用してください。)

デスクトップから Sound Engine を起動します。

設定メニューからボリュームコントロールを開きます。オプションのメニューから録音を選択し、使用する録音ソースにチェックを入れてOKをクリックします。録音に使用するメディアにチェックを入れます。

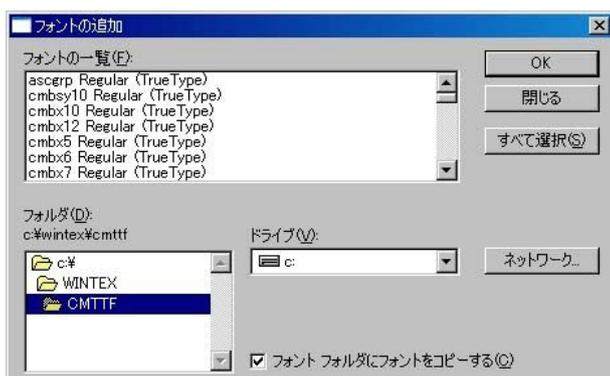
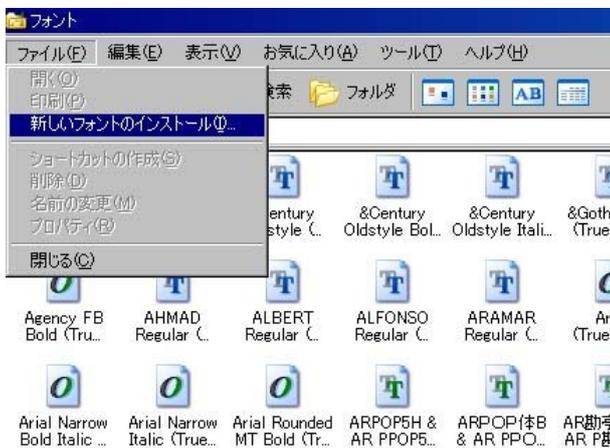
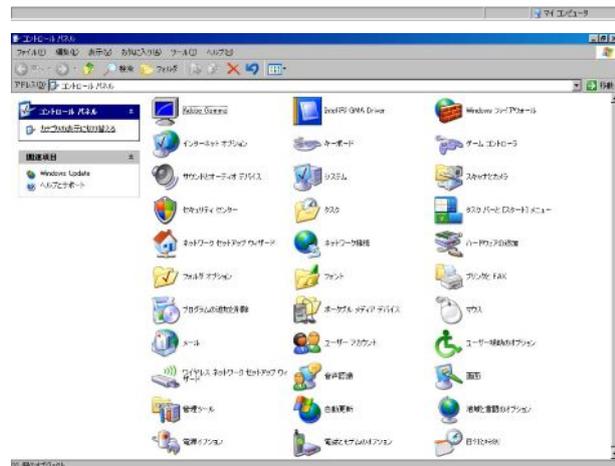
Sound Engine 本体の録音ボタン (赤●) を押すと下の画面が表示されます。この状態で録音もとの再生を開始し右端のレベルメーターを見ながら録音コントロールのボリュームを調節します。一旦再生を止め録音開始ボタン●を押してから再生を始めます。音楽が終わったら録音停止ボタン■を押します。



Sound Engine 本体の画面に戻り再生が開始されます。曲の前後の不要部分を削除し、録音された音量が小さいようなら音量メニューの「ノーマライズ」で全体を調整し、視聴してよければ保存します。ファイルメニューの名前をつけて保存をクリックします。

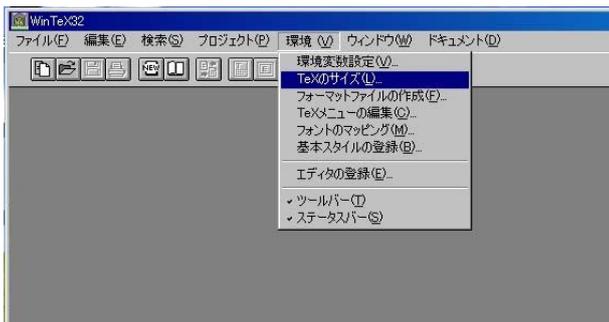
保存する場所を SDmusic に変更し、ファイル名に曲名をいれファイルの種類を MP3 に変更して保存をクリックします。これで録音は完了です。次の曲を録音するときは、ファイルメニューから新規作成を選びこのページの最初から繰り返します。最初に書いたとおり自分の持っているレコードだけを録音してください。他人から借りたレコード・MD 等からは絶対に録音しないようにしましょう。レコードを買ってください。あなたがレコードを買うことによって、レコードメーカーがよいレコードをたくさん発売してくれます。

フォントファイルをインストールします。スタート、コントロールパネル、フォントの順に開いて、ファイルから新しい意フォントのインストールを選択してください。



フォルダで WINTEX, CMTTF を選択するとフォントの一覧が表示されるのですべて選択をして OK をクリックしてください。フォントがインストールされます。インストールが完了したら閉じてください。次は TEX の環境設定です。

TEX の環境設定をします。デスクトップのショートカットから TEX を起動してください。



「環境」から TEX のサイズをクリックし BigTes を使用するにチェックをして OK します。

再度「環境」からフォーマットファイルの作成を選択します。ロードするファイルに PLPLAIN.TEX を選択します。



フォーマットファイルのパス名の参照をクリックし、C ドライブの WINTEX フォルダの BIN フォルダを選択し、ファイル名の欄に PLPLAIN と入力して保存をクリックします。

再び「環境」から Tex メニューの編集を選択し「追加」ボタンをクリックします。メニュー文字列に PLPLAIN と入力しフォーマットファイル欄で PLPLAIN.fmt を選択し「OK」をクリックします。

以上で環境設定は完了です。

ためにしにファイルから開くでフォルダを SD に移し A4SEQ.TEX を開きプロジェクトから TeX をかけてプレビューを選択してください。印刷用ファイルが表示されます。

5-1) WINTEX の利用

WINTEX は専用の TEX ファイルがないと動作しません。SD フォルダの中に TEX ファイル作成のソフトが収納してあります。デスクトップから SDPRO を立ち上げます。

```

ex SDPRO
Microsoft Windows XP [Version 5.1.2600]
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.

c:\SD>mkseq ms
mkseq: mkseq.rc does not exist

c:\SD>mkseq ms
Your name (Firstname Lastname)? Toshifumi Ueno
What level (MS)?
What month (0207)? 0506
File name (sequence.MS)?
a4seq.tex is created

c:\SD>_

```

SD>の後に mkseq ms(レベル : ms,p,a1,a2,c1...)と入力し Enter します。

Name, level, month, File name (作成元のファイルの名前) を入力すると a4seq.tex ファイルが自動的に作成されます。後は WINTEX でファイルを開きプロジェクトで TEX をかけてプレビューしてください。ファイル・印刷で印刷できます。

最後に

この CD には、基本的にフリーソフトと呼ばれるソフトウェアが収録してあります。

これらは、多くの方たちがそれぞれの知識を駆使して多くの時間を割いて作り、私たちにそのご好意で提供していただいているものです。ソフトウェアの作者の皆様へ感謝するとともに、これからも我々を手助けしていただきたくよろしくお願いいたします。